日本大学三島 同窓会々報

第 26 号

平成7年11月3日

静岡県三島市文教町2

日本大学三島同窓会発行

平成　年度 常任幹事会・幹事会開催

◎常任幹事会

平成七年七月十四日(金)十七時から、母校八号館二階において開催され、幹事会の運営、議事の内容について審議された。

◎幹事会

常任幹事会に引続き七月十四日(金)十八時から幹事会が開催された。

会は常任幹事(庶務担当)の田中由雄氏の司会により進行され、渡辺勝一会長の挨拶があり、今年度の主な柱として、会長ほか役員の改選があることを挙げられた後、議長団・書記が選出された。議長には浅原好胤氏副議長に久保田博明氏、書記には廣岡達郎氏がそれぞれ選出され次の事項が報告、審議された。

議事

一、平成六年度事業報告
一、平成六年度決算報告
一、監査報告
一、平成七年度事業計画（案）
一、平成七年度予算（案）
一、役員の件
一、各科活動状況報告
一、その他

なお、事業報告・事業計画については、佐野勝己事務局長、予算・決算は、宮川守会計担当常任幹事より説明があり、監査報告は山崎光義監査よりそれぞれ行われた。（詳細は八・九頁参照）

役員の件については、会長から規約第二十三条に基づき、役員の任期に関する説明があった。本日の幹事会で選出し、十一月の総会で諮った後、正式に決定するが、次期の会長を五期の方々に、既に委任しているとの提案があった。それを受け、勝又国信氏から、五期としては、副会長の鈴木邦良氏を推挙するとの提案があり承認された。

鈴木副会長からは、「総会で正式承認を受けてからだが、五十周年記念事業の件もあるので、会員の皆様に協力を頂き、微力ながら同窓会発展に尽くしていきたい」旨の抱負が語られた。

次いで、事務局長佐野勝己氏から各期の中で、常任幹事並びに幹事に変更があったら申し出て頂き、総会までに名簿を作成したい。また学内幹事については、事務局に一任していただきたい旨の提案が出され、いずれも承認された。

その他、開設五十周年記念に関わる事業については、顧問の西村美枝子氏から、秋山正幸国際関係学部長に大学側の式典日程・行事内容等を伺っている範囲のなかで、説明がなされ、適宜会合を開き、各期の幹事に連絡するとの報告があった。

最後に、初代事務局長の瀬川一男氏の顧問推薦の件が、渡辺会長から提案され、また任期後に渡辺会長を顧問に推挙したい旨の提案が鈴木副会長から出され、いずれも承認された。

次に、七期の方から副会長の推薦をだされたらどうかとの提案もありました。

幹事会は、山田副会長の閉会の挨拶で閉じ、引き続き懇親会が同会場にて盛大に行われ、十一月三日(金)十六時からの総会に結集するとのお互いの意志をかため散会した。

「我が青春」

短期大学部次長
中澤　俊郎

人生とは、私にとって二度と繰り返し得ない、一回限りの貴重な瞬間でもあります。人生のうちでも青春時代はとくに貴重な宝物でありましょう。このことはもちろんすべての人に共通に当てはまる、至極当然なことであります。しかしこの当然なことである青春時代の思い出が、特に重みを持って、ひしひしと胸に迫り、深い感慨を催すことが最近とくに多くなりました。今年六十八才、歳のせいだと言えばその通りでもありましょうが、かつて歌いなれた高校寮歌など口ずさむと思わずあのひたむきな青春時代を思い起こし、ついついセンチに涙など浮かべたりします。一途に道を求め、そして迷い苦しみ、友の愛に支えられ、夢と希望に胸ふくらませ、同時に不安にさいなまされながら未来の彼方を見つめていた青春時代の思い出が走馬燈のように去来しています。

私の青春は、終戦を挟んで、日中戦争・太平洋戦争の戦中時代と戦後の数年間とにまたがります。中学は井上ひさしの「青葉繁れる」の舞台「仙台一高」（かつての仙台一中）であり、中学卒業前に陸軍予科士官学校についで航空士官学校。戦後はフランス文学にかぶれて、「二高文丙」（旧制）、「東大仏文」。以上が私の青春の背景となりました。

しかし生々しい現実は簡単に一言でいえるものではありません。戦中と戦後は激しい魂の消耗の時代でした。多くの青年は心に深い傷口を作っていました。特に戦後は人を信じ難く、自分さえも信じられないような始末でした。やけっぱちの気分が満ちあふれていたともいえましょう。戦時中、国民は「一死報国」、お国のためという一色にマインド・コントロールされておりました。それが終戦の詔勅をいただくや、一挙に民主主義の戦後になったのです。世に媚び、かつての信念はどこへやら、器用に変身を遂げたものも多かった時代に、歴史とは何か、真実とは何か、自己とは何かを最初から問いたださなければならなかった若者達も多くいたことも事実です。

進駐してきた米軍の恐怖が噂ほどでもなく過ぎ去った後、国外からは軍人・軍属ある植民地寄留民たちが続々と帰国し、それと同時に食料供給は極端に細くなり、栄養失調で倒れるものが続出しました。

世相は混乱し、与えられた思想である民主主義は国民に根付くわけでもなく、当時の思想界をリードする統一理念とて無く、街頭で景気よく議論を戦わせているものがあるとすれば、それは共産主義者達と右翼の過激派でありました。主体的に行動する事になじまなかった国民の大部分は半ば自暴自棄に陥って刹那的行動に走っていたと言っても過言ではありません。

兎も角私は心の傷をいやし、自分の存在を認識し、自分の位置を確定しないうちはなんにも行動出来ぬと考えこんでいた私は、終戦後間もなく忘れもせぬ昭和二十年八月三十日に、中学時代の親友であった島影という者を説き伏せて、一緒に当時の哀れな汽車に飛び乗って二十時間以上かけて千葉県の安房郡鴨川の長安寺という禅寺を目指しました。荷物と言えば本と米のみで、当時私は十八才でした。長安寺という寺には太地玄亀（たちげんき）老師がおられました。軍人になる前に座禅の指導をいただいた方で、人の心を射抜くような鋭く大きな眼が印象的でした。兎も角当時のことゆえ散々苦労しながら長安寺に辿り着いたのです。着いて先ず指示されたことは、作務（さむ）と座禅に専一なること。自己探求に徹し、当座は一切読書は無用であること。作務とは修行中の諸作業でこれも修行の一つです。それから四十日もの間、朝から晩まで草取りと、座禅三昧でした。それ以来、毎年数十日は寺で過ごすことになったのです。

その他青春時代の思い出としては、二高時代馬術部の部員で、最後のインターハイは宮城内の本丸馬場で行われたこと。東大時代は東大仏文教青年会を主催したこと、そこでの活動は日本の「比較思想」の草分けであったと自負している等々です。

フランス文学にのめり込んだのは終戦後を経て、青年達が人生の方向を見失いがちになったとき、フランス文学が青年達の心を席巻したことがありました。私自身その虜になった一人です。フランス文学の根底にはこよなく人間を愛し、目を逸らすことなく人間の真実を見つめ続ける姿勢があり、私はそのことに深く打たれた。フランス象徴主義の祖ボードレールの一冊の詩集「悪の華」は私の青春時代のモニューメントでもあります。頽廃趣味の典型ともみなされるボードレールのうちに、高貴な人間文化の永遠の岸辺に対する啜り泣きが聞こえてくるのが堪らないと思うのです。

私の青春は「フランス文学」と「禅」である。この二つは年老いた私をがっちり握って放そうとしない。

キャンパスの歩み

昭和21年6月	大学予科を三島校舎に開設。
〃 24年4月	新学制発足に伴い、三島予科は三島教養部（法・文・経・工学部）となる。
〃 25年4月	短大経済科（現商経学科）二部・二部設置。（但し、一部は33年から38年まで経済学部校舎のみ授業）
〃 28年11月	日本大学三島同窓会結成。
〃 30年4月	岩手医科大学進学課程発足
〃 33年1月	三島教養部は文理学部三島校舎となる。
〃 34年4月	この年から法・文理・経済・商・理工学部の一般教育の授業を一ヵ年に限り三島校舎にて実施。
〃 37年3月	短大栄養科（現生活文化学科食物栄養専攻）を設置。
〃 38年4月	短大栄養科を家政科に改称。
〃 39年2月	家政専攻（現生活文化学科生活文化専攻）を増設。
〃 41年3月	生活科学研究所設置。
〃 41年4月	短大商経科（現商経学科）二部再開。短大建築科・機械科を設置。
〃 41年6月	岩手医科大学進学課程廃止
〃 53年12月	短大文科（現文学科国文専攻・英文専攻）を設置。
〃 54年4月	三島学園開設20周年記念式典挙行。
〃 54年10月	国際関係学部設置。
〃 55年7月	国際関係学部授業開始。
〃 55年8月	国際関係学部図書館が国連寄託図書館に指定される。
〃 58年4月	国際関係研究所設置。
〃 60年11月	短大建築科・機械科を廃止。
〃 63年3月	大学院国際関係研究科修士課程設置。
平成元年11月	国際関係学部図書館がEC資料センターに認可される。
	文理学部三島廃止（法・文理・経済・商学部一般教育科目授業終了、但し法学部三島校舎授業は平成4年3月まで）
	国際関係学部10周年記念式典挙行。

大学予科学泉寮の想い出

甲木康夫

今朝も学泉寮歌を聴いた。休日の朝は全国高等学校寮歌のテープを流す、その最初に日大予科学泉寮歌を聴くのである。学泉寮歌は何時聴いても感動を覚える。そして、四十七年前の若き予科学泉寮時代を想い出すのである。

昭和二十三年春、やっと戦争が終り、まだ食糧難の時代である。九州から機関車に繋がれた列車に乗り込み、二十四時間の旅、沼津で乗り換え、三島駅頭に立つ。駅には歓迎の〝檄文〟が張り出されている、先輩達に囲まれ寮まで案内される。予想以上のバンカラであった。

校門は陸軍の営門のまま、広大な校庭の向こうに校舎が二棟、左右に横たわっている、これも兵営である。ここを通り抜けると二階建ての寮がある。一階は而寮、二階が南寮、裏に魏寮、その奥に瀛寮が北寮と前後に並んでいた。総称して学泉寮と言う。

寮には寮長が居り、学生の自治で運営される。部屋は六畳で一年・二年・三年生、又、文科・理科系と入り乱れ一緒に寮生活をした。

食堂も別棟で寮の西側にあり、食事はコッペパン・うどん・薩摩入りお粥・すいとん・薩摩芋、そして牛の〝もつ〟入りカレーライス、これは御馳走である。まだ外食券の必要な時代であった。

入寮して間も無く、夜床に入り、故郷の夢を見んとする頃、先輩達の歓迎ストームで叩き起こされた。バケツや薬罐を叩き、寮歌を唄いながらストームが始まる。寮長の巻頭言、そして寮歌、火燃を囲み乱舞である。

寮生活に慣れた六月、寮生全員熱海から箱根神社まで歩き、そしてお寺へ泊まり、又三島まで寮歌を唄いながら徒歩で帰って来た。これは想い出深い箱根遠征であった。

十月の予科祭もクラス毎に思考を凝らし、三島の名物となっていた。勿論寮祭も同時に開催、徹夜で準備し、大いに盛り上がったことを想い出す。

平常は、授業開始の鐘が鳴ると寮から教室へ駆け込む者、そのまま町の方へ直行する者、様々であったが、文科系・理科系・医学進学コースの学生達等、将来進む方向の違った友人達と寝食を共にしたことは、社会学や、文学趣味等、お互いに啓蒙し合ったことと、本当に意義深いものがあったように思われる。

平成七年十一月三日、三島学園祭（富桜祭）と時を同じく、四十七年振りに〝学泉寮の集い〟を計画した処、〝遠方より友来る〟多数の旧寮生が馳せ参じ学泉寮跡地に集まり寮歌を唄うことになった。

寮長は巻頭言を絶叫する

『挙世滔々として惰弱に流れ
表に美言を嘔き、裏に現今の流行を追いて
華美の装いに寧日なき黄口児
来たりて吾嶽南覇者の声を聴け
縒れし二條の白線は血と涙に彩られし
先輩遺物の結晶で無くて何ぞ
汗汚れ綻びし羊羹色の上着は
吾等が努力の賜で無くて何ぞ
然り志向して今嶽南の地に居を卜す
豈亦感激の象徴ならんや
感や歌　感や踊らん哉』

学泉寮歌　アイン、ツァイ、ドライ、

一、世は混濁の淵に落ち
人は空虚に嘆けども
魏然珠寮に籠もる
若き理想を誰が知る
若き理想を誰が知る

二、三、四、五、六

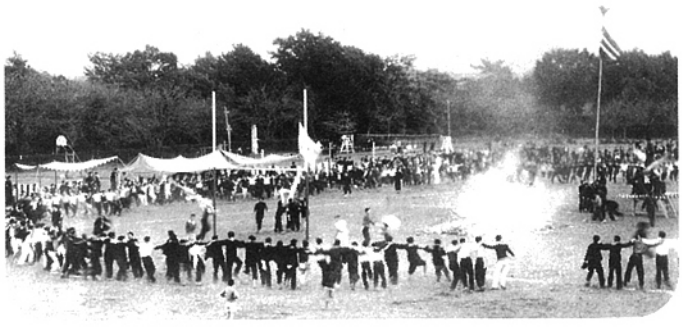
又この度の再会を悦び友は言う、仰げは富嶽の白雪皚々としてわれらに不易の真理を啓示し、青春の鬱勃たる情熱を想起させんとす。我らこの岳南の地に蟠居して、あるいは吠え、あるいは泣きてまた狂奔せし、青春のありしを忘れることなし、岳南に覇を唱え、転倒不起の疾風怒濤に身をゆだねしは、唯蛮勇の然らしむるところに非ざるなし。

半世紀を経て我らすでに往時茫々たるの思いしきりなんぞ、今ここに再会せし歓喜またいわん方なし、友よ更に新しき盃を求めると絶叫せし、遠き日の思いを今ここに再現せんかな、さらば声高らかに我らが青春を誇りつつ、いざや唄わんかな、いざや舞わんかな、　青春の栖こそ、正に我らが学泉寮にてありき。

学泉寮の友よ、遠く遠く馳せ、兄ら自身を青春の彼方に導き給え

（23年予科理科入学
（現・勝村建設㈱　勤務））

（当時の記録）
昭和23年６月５日　箱根神社にて
日本大学豫科学泉寮　箱根遠征



（当時の記録）
昭和23年10月　　日本大学豫科祭、学泉寮祭にて
寮生を真中に全豫科生ともにファイヤーストーム

我が故郷

小塚達郎

社会人としてスタートして半年がすぎました。何もかもが新しい事ばかりの毎日で、気が付いたら夏を越え秋を迎えていたという感じです。

私にとって国際関係学部在学中、三島での四年間で得たものは計り知れないものがあります。それは友人たちです。映画制作、文化会執行部、富桜祭実行委員会、卒業記念委員会など様々な組織の中で、苦楽をともにした友人たちは私の宝物です。今、考えてみても忙しい日々でしたが、時にはケンカしながらも目的を成し遂げたときの喜びを、共有した者にしか分かりあえない何かを得ることができたのではないかと思うのです。

そんな友人たちだからこそ、安心してどんなことでも話せるのです。しかし、弱音だけは絶対吐きません。良きライバルでもあるからです。あいつ等だって頑張っているんだから俺だってと思わざるを得ないのです。

学生の数だけ、それぞれの『学生時代』というものがあるわけですが、私にとって国際関係学部での学生時代は間違いなく掛け替えのないものであると、胸を張って言う事ができます。今、土地感の全く無い大阪で日夜奮闘していますが、四年前は三島も未知の世界であったわけです。そこで様々な人々と出会い、支えてもらえたからこそ国際関係学部での四年間を悔いなくすごせたものと感謝しています。その感謝の気持ちをいつまでも忘れる事なく、今、お世話になっている方々にも支えられているのだという気持ちを意識していきたいと思います。

こんな風に考えられるようになれたのも、三島の懐深い豊かな自然にふれ、三島で出会えた人々がいたからであり、この気持ちを忘れそうになったとき、国際関係学部、そして三島に行こうと思っております。

国際関係学部　平成六年度卒
（平成六年度　同窓会長賞受賞）

一つの道

丸山さゆり

私が日本大学短期大学部に入学してから、一年半が経ちました。

そして、今年の四月、開講式の当日、壇上にあがって賞状をいただくのは、何年ぶりでしょうか。同窓会長賞をいただいた時は、本当に嬉しかったです。「日本大学に来て良かった。」と、これほどまでに実感したことはありませんでした。

大学に入って感じたことは、「大学生活を毎日忙しく過ごせることは、幸せなことだなぁ。」ということです。私は迷わず、クラス委員連絡会議執行部（通称クラ連執行部）、そして、富桜祭実行委員会に入り、様々な活動をしてきました。特にクラ連執行部の活動では、会計になり、「お金を管理することの重大さ。」を、知らされました。また、今年は、広報局員として、「年間発行部数一万部」を目標に『BRIDGE』を作っています。私はこの大学に来て、沢山の新しい自分というものを発見しました。仕事は地味で、辛いことも沢山ありますが、皆さんの嬉しそうな笑顔、そして、自分に返ってくる充実感が、たまらなく良かったです。色々な活動をしていく上で、これからの進路について考えると、とても悩んでいる時期がありましたが、ある日突然、「地元に帰って、地域の方々の為に役立てるような仕事をしよう。」と、決心しました。本当は、四年制大学に編入し、もっと沢山の人と出会い、沢山の事を学びたかったのですが、この大学で学んだことを財産にして持っていけば、社会に旅立っても大丈夫であろうという自信もあります。私の家族は正真正銘の組合員一家であり、兄も大学を出てからは組合職員として頑張っています。就職も編入も難しい世の中ですが、自分の本当の進むべき道を見つけることができ、本当に良かったと安心しています。そして、心のゆとりもできた所で、今は、これから地域の方々と接することも多くなると思いますので、少しでも慣れておこうと、結婚式場でのアルバイトを始めました。

半年後には、三島を離れますが、第二の故郷として、時々里帰りをしたいと思います。また、途中で人生に迷いが生じた時は、もう一度決心したこの場所に戻って考えようと思います。残された時間を有効に使い、沢山の財産と思い出を作りたいと思っています。

短期大学部文学科二年
（平成七年度　同窓会長賞受賞）

於　日本武道館（H7.3.25）

於　本学大講堂（H7.4.10）

事務局短信

佐野　勝己

同窓会員の皆様には、ますますご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

さて、前任者角田義廣氏から不肖私が事務局長を引継ぎ、五年の歳月がたちました。

この間、会員の皆様を始め、会長ほか役員の方々にも、多大なご支援、ご協力をいただき、事務局も学部内に勤務する職員で構成され、微力ながらも本会運営の事務事項を遂行しておりますことを、ご報告申し上げ、紙面をお借りしまして、厚くお礼申し上げます。

総会は、毎年十一月三日に開催する事と申し合わせがなされているため、全会員には連絡ができませんが、役員の皆様には、富桜祭実行委員会からの学部祭案内状の中に、総会並びに懇親会のお知らせを同封して、出来るだけ多くの方々をお誘い頂き、ご出席下さいますよう、ご期待申しております。

本キャンパスは、前掲の幹事会報告でも述べられていますように、昭和二十一年に三島の地に日本大学三島予科が設立されて以来、平成八年をもって五十周年を迎えます。

大学としては、これを機に来年十月に記念式典を計画していますが、半世紀を迎えようとしているこのキャンパスに、○大先輩の方々の来訪が続いています。十月三十日には、予科理科（甲類）に昭和二十一年に入学され、この地で学ばれた、清好一・中野繁氏十数名の方々が同窓会の帰りに立ち寄られ、そして、十一月三日には、豊田進・甲木康夫氏を発起人として、「予科学泉寮のつどい」と称する　昭和二十年代に元中隊兵舎と装蹄場を改造した学生寮出身者が学泉寮旧跡地（現、プール・第三体育館付近）で寮歌を合唱するなど、いずれの方々も、過ぎし青春時代の学舎を顧みて、感慨無量に浸っておられました。

この他にも、入試時にご子弟と、又家族旅行の途中や、クラス会の帰りにとご来校される出身者も少なくありません。

現在どれ位の出身者がいるだろうかと、私の手元の資料から規約第三条の順に追ってみると、下記の通り八〇、五一五名を数えることが出来ます。皆様方はどこに位置するでしょうか。それぞれの学部・学科・クラス単位の同窓会が、このように大きな日本大学三島同窓会という組織になっている事が歴史を追って、おわかりいただけるかと思います。

事務局一同、いつでも、皆様のご来訪を歓迎し、お待ち申しております。

（同窓会事務局長）

◆学部移行生

学部	在学期間	出身者数
予科（文科）	昭和21年～23年	1,280名
予科（理科）	昭和23年	672
医進コース	昭和31年～40年	698
法学部	昭和24年～60年	14,444
文理学部	昭和24年～60年	4,313
経済学部	昭和24年～60年	16,818
商学部	昭和32年～60年	7,413
工・理工学部	昭和24年～42年	5,029
合計		50,667名

◆卒業生

大学院・学部・学科	在学期間	終了・卒業者数
大学院	昭和58年～	95名
国際関係学部		
国際関係学科	昭和54年～	1,787
国際文化学科	〃	1,802
短期大学部		
※1 文学科（国文専攻）	昭和41年～	4,001
〃（英文専攻）	〃	3,953
※2 商経学科（一部）	昭和25～32年 昭和39年～	5,546
〃（二部）	昭和25年～	2,164
※3 生活文化学科（生活文化専攻）	昭和37年～	2,783
〃（食物栄養専攻）	昭和34年～	4,721
建築科	昭和39～54年	1,872
機械科	昭和39～54年	1,124
合計		29,848名

（※1は旧文科含。※2は旧商経科含。※3は旧家政科及び栄養科含）

幹　事　真部　喜孝　(27・28)
幹　事　結城　勇一　(27・28)
幹　事　土屋　　仁　(27・28)
幹　事　丸山富美男　(28)
幹　事　坂詰　正衛　(28・29)
幹　事　望月　知林　(28・29)
幹　事　安東　安生　(29・30)
幹　事　田嶋　文義　(29・30)
幹　事　寺崎　哲郎　(29・30)
幹　事　関　　哲男　(29・30)
幹　事　林田（中村）　達郎　(29・30)
幹　事　森　　伸夫　(30・31)
幹　事　道見　俊廣　(30・31)
幹　事　小野　　武　(30・31)
幹　事　杉山　　茂　(30・31)
幹　事　根岸　元宏　(31・32)
幹　事　加藤　三州　(31・32)
幹　事　渡部　浩司　(31・32)
幹　事　大村日出雄　(32)
幹　事　甲田　知由　(33)
幹　事　杉本　直志　(33)
幹　事　市橋　　悟　(34)
幹　事　朴澤　英憲　(34・35)
幹　事　吉野　洋一　(35)
幹　事　横田　晋朗　(35)
幹　事　鈴木　　肇　(35)
幹　事　御供　政紀　(35・36)
幹　事　小澤　文郎　(36)
幹　事　大西　良雄　(37)
幹　事　小川　武司　(37)
幹　事　多田清太郎　(37)
幹　事　坂口　正剛　(37)
幹　事　小石川宣照　(37)
幹　事　谷崎　邦昭　(38)
幹　事　栗山　康雄　(39)
幹　事　両角　　勇　(42)
幹　事　濱田　義之　(45)

幹　事　高藤　省三　(49)
幹　事　河田　敏明　(50)
幹　事　滝本　　博　(53)

幹　事　岩崎（伊藤）　尚枝　(41・42)
幹　事　小永井京子　(43・44)
幹　事　平岩（金子）美知子　(44・45)
幹　事　高橋（大場）真理子　(44・45)
幹　事　石井千枝子　(46・47)
幹　事　勝亦（古川）　幾代　(56・57)
幹　事　佐野　裕子　(58・59)
幹　事　芦川（辻井）　哉子　(60・61)
幹　事　沓間　恭子　(60・61)
幹　事　鈴木三奈子　(62・63)
幹　事　宇佐見京子　(元・2)

幹　事　荒木（飯村）とよ子　(39・40)
幹　事　萩野谷　肇　(41・42)
幹　事　上田　定義　(41・42)
幹　事　加藤　久貴　(46・47)
幹　事　秋山　稔明　(46・47)
幹　事　前田　正丈　(47・48)
幹　事　藤本　哲生　(47・48)
幹　事　野田　　栄　(47・48)
幹　事　棚橋　敏彦　(50・51)
幹　事　小松真由美　(51・52)
幹　事　矢崎　真治　(53・54)

幹　事　渡辺　桂子　(60・61)
幹　事　林　　尚美　(62・63)
幹　事　野室香世子　(2・3)
幹　事　穐山　　桂　(3・4)

幹　事　宮下　正俊　(39・40)
幹　事　瀬村　隆治　(42・43)
幹　事　吉田　　力　(44・45)

幹　事　長倉　良幸　(44・45)
幹　事　前山　良光　(45・46)
幹　事　早川　清文　(45・46)
幹　事　菅野　利幸　(45・46)
幹　事　三枝　和彦　(46・47)
幹　事　天野　寿一　(48・49)
幹　事　埜村　光伸　(53・54)

幹　事　岩月　和男　(40・41)
幹　事　中山　義昭　(41・42)
幹　事　渡辺　　清　(42・43)
幹　事　赤池　哲也　(42・43)
幹　事　深井　富雄　(45・46)
幹　事　河田　哲雄　(46・47)
幹　事　西家　勝彦　(51・52)
幹　事　勝呂　千明　(52・53)

幹　事　加藤　晴俊　(30・31)
幹　事　加藤　博昭　(48・49)
幹　事　津田　正克　(50・51)
幹　事　後藤　善夫　(52・53)
幹　事　吉村しげみ　(元・2)
幹　事　鈴木知恵美　(2・3)
幹　事　藤澤　博隆　(3・4)

幹　事　遠藤日出夫　(37)
幹　事　渡辺　博夫　(37)
幹　事　江川　　洋　(42)
幹　事　藤幡　俊量　(46)

幹　事　松原　裕二　(54～57)
幹　事　井上（贄川）　晶子　(54～57)
幹　事　大木めぐみ　(2～5)
幹　事　阪　　朋子　(2～5)
幹　事　小川　菊子　(2～5)

任期（H6.4.1～H8.3.31）

平成７年度役員

顧　　問　西村　満男　(21～23)
顧　　問　西村美枝子（長谷川）　(22～24)
顧　　問　中嶋　信行　(23～25)
顧　　問　奥田　吉郎　(23～25)
顧　　問　宮沢　主計　(25・26)
顧　　問　見上　勇逸　(27・28)

会　　長　渡辺　勝一　(26・27)
副 会 長　鈴木　邦良　(27・28)
副 会 長　小椋　貞夫　(28・29)
副 会 長　平井　千枝　(34・35)
副 会 長　高田　菊平　(36)
副 会 長　山田　浩子　(41・42)
副 会 長　岩崎　一雄　(43・44)
副 会 長　宮下　公雄　(54～57)
事務局長　佐野　勝己　(39・40)
常任幹事（庶務担当）　久保田　勝　(38・39)
常任幹事（庶務担当）　田中　由雄　(42・43)
常任幹事（会計担当）　宮川　　守　(47・48)
常任幹事　木村　幸夫　(23～25)
常任幹事　白鳥　義仁　(25・26)
常任幹事　大井　徹也　(26・27)
常任幹事　鈴木　義樹　(28・29)
常任幹事　角田　義廣　(30・31)
常任幹事　市川　紀子　(37・38)
常任幹事　小出　　博　(40・41)
常任幹事　柴田　　正　(41・42)
常任幹事　土屋　貞明　(42・43)
常任幹事　小早川隆義　(42・43)
常任幹事　染谷　徳昭　(42・43)
常任幹事　渡辺　忠昭　(42・43)
常任幹事　林田　孝二　(43)
常任幹事　山口　良児　(43・44)
常任幹事　相田　信次　(44・45)
常任幹事　鈴木　正八　(44・45)
常任幹事　久保田博明　(45・46)
常任幹事　榎本　睦美　(45・46)
常任幹事　西野　和衛（望月）　(46・47)
常任幹事　江本　博勝　(46・47)
常任幹事　沼上　博美（伊出）　(48・49)
常任幹事　関野　幹雄　(48・49)
常任幹事　大島　裕二　(52・53)
常任幹事　斎藤　　聡　(54～57)
常任幹事　小澤里佳子　(57・58)
常任幹事　野田　正人　(62・63)
常任幹事　久保　和之　(63・元)
常任幹事　廣岡　達郎　(元～４)
会計監査　山崎　光義　(44・45)
会計監査　土屋　忠得　(40・41)

幹　　事　高田日出太郎　(21)
幹　　事　馬場　康夫　(21・22)
幹　　事　清　　好一　(21～23)
幹　　事　石垣　義親　(21～23)
幹　　事　小野　真一　(21～23)
幹　　事　米内　国夫　(21～23)
幹　　事　澤　　直和　(21～23)
幹　　事　滝川　　昇　(22・23)
幹　　事　中浜　卓弥　(22～24)
幹　　事　中塩　利雄　(22～24)
幹　　事　北條　　晃　(22～24)
幹　　事　長田　　渉　(22～24)
幹　　事　山内　　茂　(22～24)
幹　　事　川口　正信　(22～24)
幹　　事　小林　昭雄　(22～24)
幹　　事　金田　　豊　(23～25)
幹　　事　小林　栄三　(23～25)
幹　　事　勝俣　敞充　(23～25)
幹　　事　山本　康弘　(23～25)
幹　　事　森下　菊美　(23～25)
幹　　事　宝地　克哉　(23～25)
幹　　事　播本　　弘　(23～25)
幹　　事　長谷川駿一　(23～25)
幹　　事　徳増　清二　(23～25)
幹　　事　石野　　進　(23～25)
幹　　事　石垣　恭弘　(23～25)
幹　　事　井上　忠彦　(23～25)
幹　　事　細田　昭次　(23～25)
幹　　事　杉山　吉房　(23～25)
幹　　事　服部　房夫　(23～25)
幹　　事　芹澤　克治　(24・25)
幹　　事　石川　　進　(25・26)
幹　　事　矢沢　知秋　(25・26)
幹　　事　長倉　祐作　(25・26)
幹　　事　宮崎　茂樹　(25・26)
幹　　事　伊藤　　悟　(25・26)
幹　　事　辻　　省二　(26・27)
幹　　事　田村　　実　(26・27)
幹　　事　浅原　好胤　(26・27)
幹　　事　宮崎　乾朗　(26・27)
幹　　事　高橋　英明　(26・27)
幹　　事　荒川　　通　(26・27)
幹　　事　岩永　　勉　(26・27)
幹　　事　塩田　　浩　(26・27)
幹　　事　村野　静司　(26・27)
幹　　事　光信　　儔　(26・27)
幹　　事　稲葉　　昭　(26・27)
幹　　事　吉田　昭二　(26・27)
幹　　事　熊崎　文二　(26・27)
幹　　事　輿水　啓一　(26・27)
幹　　事　廣田　　均　(26・27)
幹　　事　栗原　恒夫　(26・27)
幹　　事　黒滝　祐司　(27・28)
幹　　事　小林　義尚　(27・28)
幹　　事　田村　栄一　(27・28)
幹　　事　鈴木　　稔　(27・28)
幹　　事　上野　　実　(27・28)
幹　　事　関本　文彦　(27・28)

平成６年度　事　業　報　告

1　三島同窓会長賞授与
平成６年度日本大学三島キャンパス在学生から、次の者が推薦された。同窓会長賞（副賞記念品）は、国際関係学部２名、短期大学部２名に贈られ、平成７年３月25日の卒業式当日、日本武道館において学位記・卒業証書伝達式のなかで授与式が行われた。
同窓会長賞（副賞奨学金）は、国際関係学部１名、短期大学部２名に贈られ、４月10日の開講式当日授与式が行われた。
同窓会長賞（副賞記念品）４名
清水健（国際関係学科４年）　小塚達郎（国際文化学科４年）
小沢佳代子（英文専攻２年）　町野智彦（商経学科二部２年）
同窓会長賞（副賞奨学金）３名
明石浩一（国際文化学科２年）　丸山さゆり（国文専攻１年）
古泉典彦（商経学科二部１年）

1　学園歌集発行
3,000部を発行し、平成６年４月国際関係学部・短期大学部各学科の新入生全員に対し入学祝いとして渡した。

1　会報発行
会報25号、平成６年11月３日付　８頁　3,000部を発行した。

1　各科同窓会等補助
国際関係学部同窓会・桜文会・桜栄会・商経科二部同窓会、及び大学の体育会に補助した。

1　常任幹事会
平成６年７月８日㈮17時から、国際関係学部８号館２階で開催した。

1　幹事会
平成６年７月８日㈮18時から、国際関係学部８号館２階で開催した。

1　総会並びに懇親会
平成６年11月３日㈭16時から、国際関係学部記念館で開催した。

1　箱根駅伝応援
平成７年１月３日㈫復路スタート地点及び第２中継点近くで応援した。

平成６年度　収支決算書

（平成６年４月１日～平成７年３月31日）　単位：円

支出の部 項目	予算額	決算額	差異	収入の部 項目	予算額	決算額	差異
奨学費	850,000	823,080	26,920	会費収入	4,134,000	4,173,000	△ 39,000
学園歌集発行費	160,000	0	160,000	雑収入	574,588	676,311	△ 101,723
同窓会報発行費	180,000	154,500	25,500	前受金収入	2,700,000	2,289,000	411,000
各科同窓会等補助	520,000	320,000	200,000				
総会並びに懇親会費	430,000	309,670	120,330				
会議会合費	300,000	255,893	44,107				
通信運搬費	50,000	22,400	27,600				
事務費	100,000	47,220	52,780				
雑費	200,000	121,320	78,680				
予備費	700,000	0	700,000				
計	3,490,000	2,054,083	1,435,917	計	7,408,588	7,138,311	270,277
基金繰入額	1,300,000	2,200,000	△ 900,000	基金繰出額	0	0	0
次年度繰越金	2,700,000	2,965,640	△ 265,640	前年度繰越金	81,412	81,412	0
（前受金）	(2,700,000)	(2,289,000)	(411,000)				
（繰越金）	(0)	(676,640)	(△ 676,640)				
支出の部合計	7,490,000	7,219,723	270,277	収入の部合計	7,490,000	7,219,723	270,277

貸借対照表

（平成７年３月31日現在）　単位：円

借方 項目	金額	貸方 項目	金額
普通預金	2,965,640	基金	32,500,000
		（前年度繰越額）	(30,300,000)
定期預金	32,500,000	（本年度繰入額）	(2,200,000)
		次年度繰越金	2,965,640
		（前受金）	(2,289,000)
		（繰越金）	(676,640)
合計	35,465,640	合計	35,465,640

基金の内訳

単位：円

項目	前年度繰越額	本年度繰入額	合計
同窓会事業基金	25,800,000	1,600,000	27,400,000
国際関係学部校友会加盟基金	4,500,000	600,000	5,100,000
計	30,300,000	2,200,000	32,500,000

平成６年度収支について、関係帳簿並びに証拠書類を精査いたしましたが、記帳その他正確であることを認めます。

平成７年７月14日

会計監査　山崎光義　㊞
同　土屋忠得　㊞

平成７年度　事　業　計　画

1　三島同窓会長賞授与（副賞：記念品もしくは奨学金）
日本大学国際関係学部および短期大学部を平成８年３月卒業・４月に進級の予定の者を対象とする。

同窓会長賞並びに記念品	国際関係学部	４年卒業予定者	各学科１名
	短期大学部	２年卒業予定者	各学科１名
同窓会長賞並びに奨学金	国際関係学部	各学科２・３年生	各学年１名
	短期大学部	１年生	各学科１名

1　学園歌集発行予定
3,000部を発行し、平成８年４月国際関係学部・短期大学部各学科の新入生全員に対し入学祝いとして渡す。

1　会報発行予定
会報26号（平成７年11月３日）発行　10頁　3,000部

1　各科同窓会等補助
(1)　各科の名簿編集の推進、及び各科同窓会行事に対する補助。
(2)　大学体育会・文化会に対する補助。

1　常任幹事会
平成７年７月14日㈮17時から、国際関係学部８号館２階において開催する。

1　幹事会
平成７年７月14日㈮18時から、国際関係学部８号館２階において開催する。

1　総会並びに懇親会
平成７年11月３日㈮16時から、国際関係学部記念館において開催する。

1　箱根駅伝応援
平成８年１月３日㈬復路スタート地点等において応援する。

平成7年度　収支予算書

（平成７年４月１日～平成８年３月31日）

単位：円

支出の部 項目	本年度予算額	前年度予算額	増・減(△)	収入の部 項目	本年度予算額	前年度予算額	増・減(△)
奨学費	350,000	850,000	△ 500,000	会費収入	4,263,000	4,134,000	129,000
学園歌集発行費	210,000	160,000	50,000	雑収入	320,360	574,588	△ 254,228
同窓会報発行費	180,000	180,000	0	前受金収入	2,400,000	2,700,000	△ 300,000
各科同窓会等補助	120,000	520,000	△ 400,000				
学生団体補助	400,000	0	400,000				
総会並びに懇親会費	430,000	430,000	0				
会議会合費	300,000	300,000	0				
通信運搬費	50,000	50,000	0				
事務費	100,000	100,000	0				
雑費	200,000	200,000	0				
予備費	700,000	700,000	0				
計	3,040,000	3,490,000	△ 450,000	計	6,983,360	7,408,588	△ 425,228
基金繰入額	2,220,000	1,300,000	920,000	基金繰出額	0	0	0
次年度繰越金	2,400,000	2,700,000	△ 300,000	前年度繰越金	676,640	81,412	595,228
(前受金)	(2,400,000)	(2,700,000)	(△ 300,000)				
(繰越金)	(0)	(0)	(0)				
支出の部合計	7,660,000	7,490,000	170,000	収入の部合計	7,660,000	7,490,000	170,000

同窓会だより

国際関係学部同窓会

平成七年度の同窓会は、来る十一月四日(土)三島駅前の田代パレスにて開催いたします。十五時から総会続いて恩師等を招き懇親会を行います。卒業生が、多数参加されますよう、期待しています。なお、平成六年度の総会は昨年十一月五日に執り行われ、卒業生、恩師等六十余名の方々の参加を得、特に一期生の方々が多く、なかには子供連れで出席された者もいて、秋山学部長や恩師の先生方を囲み盛大に開催されました。

（文責　斉藤　聡）

桜文会

去る平成七年二月十八日、短期大学部文学科の同窓会（桜文会）が、三島プラザホテルで開催されました。第二十七回を迎えた本会では、卒業を三月に控える二十九期生、多数の同窓会諸姉、そして、谷口次長をはじめ、多くの先生方のご列席をいただき、盛大な総会を開催させることができました。

三島市長並びに、秋山正幸学部長、そして山田浩子桜文会会長より丁重なるご祝辞をいただいたり、恩師の先生方との和やかなひとときなど、たいへん有意な時間を過ごしました。

桜文会を通じて、これからも会員の方々が交流を深め、新たなる発展につながるよう心から祈ってやみません。

（文責　宇佐見京子）

商経科同窓会

平成七年度の商経科同窓会総会が平成七年十月二十日(金)十八時三十分から母校八号館二階において、六十余名の参加により盛大に開催されました。岩崎一雄会長の挨拶に始まり、事業報告・収支報告等の説明、特に役員の件については、来年度役員改選の年にあたるので、今から各期での幹事の変更等について充分ご検討いただく旨の報告依頼があり、全員拍手をもって了承していただきました。また、三島同窓会事務局より、来る十一月三日の総会の案内があり、総会は無事終了いたしました。

総会に引き続き懇親会が開催され、山崎光義副会長の開会の挨拶、会長挨拶の後、来賓として北川道男先生のご祝辞をいただき、中茎幸治相談役の乾杯の音頭により、和やかに会が進められ、お互いに懐かしく語り合い、近況報告するなど有意義な時間を過ごしました。会は大いに盛り上がったところで山口良児副会長の万歳三唱により、次回結集するとの意志をお互いにかため閉会されました。

（文責　久保田　勝）

桜栄会

桜栄会では、毎年会報「桜栄」を発行しております。今年度は三十号を平成七年二月二十日に発行し、約七千名の全会員に郵送いたしました。今期より当番期の方々を中心に作成することとなり、特色ある会報をお届けできたことと思います。

平成七年六月十一日(日)には、第三十五回総会・懇親会が田代パレスにて行われました。総会で年間報告、会計報告などを行った後、講師に生活文化学科長岩瀬善則教授を迎えて講演会が行われました。引き続き行われた懇親会は、五期・十五期・二十五期の当番期を含む約五十名の会員と秋山正幸学部長をはじめ恩師の先生方や三島同窓会からの来賓をお迎えして、盛大な会となりました。

現在、十年に一度発行の会員名簿作成にも取り掛かっております。平成九年三月に発行を控え、良いものを作成し会員の皆様にお届けしたいと思います。

（文責　野室香世子）